

ここを変えたら、学校改善が進む！

ー学校アドバイザーチームが学校訪問を通して整理した 学校改善の視点と手法ー

学校アドバイザーチーム

要 旨

平成18年、本県独自のシステムとして「学校アドバイザーチーム」が設置され、各学校に対して単に学校経営・教育活動の改善や課題の解消を求めだけでなく、具体的方策や改善の方向性を示し、学校経営に取り組む管理職や教育活動に腐心する多くの教職員を支援してきた。ここでは、学校が主体的に改善に取り組む上で参考になるよう、学校アドバイザーチームが訪問を通して把握した学校の状況から、学校改善に向けた視点と手法について考察して掲載した。

キーワード： 学校力向上、授業力向上、学校の応援団づくり

1 はじめに

学校アドバイザーチームは、小学校、中学校、県立学校ごとに5名で構成され、県内すべての公立学校を計画的に訪問している。訪問した学校では、学校経営や教育活動全般を診断し、優れた取組や改善点等をアドバイザーレポートとして、当該の学校と市町村教育委員会へ示している。各学校は、そのレポートを踏まえて改善の方針や具体策を設定し、改善に向けて熱心に取り組んでいる。設置から4年、これまでに、延べ、小学校216校、中学校138校、県立学校61校を訪問した。今回、各校での優れた取組を整理して、学校改善の視点と手法を「学校経営」「教育活動」「地域等との連携」の3つの柱に沿ってまとめた。各校が魅力と活力ある学校づくりを推進する上での一助となれば幸いである。

2 研究目的

各校における学校改善の取組を整理し、学校改善の視点と手法を探る。

3 研究方法

- (1) 「学校力をワンステップ上げるために」という視点で考察（小学校）
- (2) 「授業を変えれば生徒が変わる」という視点で考察（中学校）
- (3) 「地域連携の促進ー学校の応援団づくりー」という視点で考察（県立学校）

4 研究内容

- (1) 学校力をワンステップ上げるために（小学校の取組より）

学校力を高めるためには、教育目標や方針の実現に向けて、学校が一丸となっ

て取組を進めることが重要である。

そのためには、目指す学校像を共有することや組織力を高めること、また、学校評価を通して、絶えず学校改善を図ること等が必要である。

具体的には、様々な機会に、様々な方法で、学校の方針や状況を発信することや、学校の取組に沿った具体的な学校評価を行い、組織的・継続的に学校改善を進めること等が求められる。

ア 学校像を共有する

(7) 目指す学校の全体像が、だれにでも（教職員・児童生徒・保護者・地域等に）よく分かる

〈具体例〉

【三輪小学校のグランドデザイン】

学校教育目標を基に、知・徳・体の調和のとれた「めざす児童像」が設定されている。そして、それぞれの児童像に対応する形で、具体的な取組が簡潔に示されている。「学校教育目標」、「めざす児童像」、「具体的な取組」という一連の内容の筋道が通っていて(つながりが分かるように3色に色分けしている)、だれにでもよく分かるグランドデザインとなっている。また、教育目標を書いた「卓上のぼり」を作り、校長室や職員室に置いて、来客者等にも浸透を図っている。

【忍海小学校のグランドデザイン】

学校教育目標をキャッチフレーズ「心ほかほか 瞳きらきら 元気もりもり」で表し、だれにでも親しみやすくしている。また、「友達大好き」、「勉強大好き」、「運動大好き」な児童の育成を目指して、具体的な取組を明記している。さらに、今年度、特に力を入れて取り組む項目については、数値目標を設定し、学校評価を通して検証しながら取組を進めていけるように工夫している。

(4) 努力目標をみんなで決めて、教職員の学校運営への参画意識を高める

〈具体例〉

【大安寺西小学校の取組】

年度初めに教職員から、本校の児童に「付いている力は何か」、「足りない力は何か」に関するアンケートをとっている。それらを検討した上で、本年度特に力を入れていく努力目標(重点課題)を設定している。教職員が努力目標の決定に関わることで、すべての教職員が学校運営への参画意識をもって取組を進めることができる。

イ 組織力をアップする

(7) 企画委員会や専門委員会、学年会等が機能している

〈多くの学校で見られる例〉

教育目標達成の観点から、課題を明確にするために、教務や各分掌において提案される議案を、事前に企画委員会や専門委員会、学年会等で検討した上で職員会議を行っている。

(4) 計画的・効率的に会議を進める

〈具体例〉

【前裁小学校の会議の進め方】

伝達することと話し合うことをきちんと区別して、伝達することはメモで周知し、会議では、話し合う時間を十分とっている。

ウ 学校評価を学校づくりの柱にする

(7) PDCAサイクルが機能している

〈具体例〉

【老分小学校の学校評価】

「学校評価の全体計画」を作成し、「評価の種類」と「評価者」を明確にするとともに、どの時期にどんな評価をするのかということを明示し、年間を通して見通しをもって計画的に学校評価を進める体制ができている。全体計画を示すことで、すべての教職員のものとして学校評価をとらえ、共通理解をして推進することができる。

【鴨公小学校の学校評価】

教職員が行う自己評価と同じ項目で、保護者対象のアンケートを実施している。そのアンケート結果を活用しながら、自己評価を分析・考察して、成果と課題、改善点を明確にし、次年度へつなげている。評価結果については、自己評価、保護者対象のアンケート、考察及び改善策すべてを「学校評価書」としてまとめ、ホームページで公表している。

(4) 「めざす学校像」に沿った具体的な評価をしている

〈具体例〉

【治道小学校の学校評価】

「めざす学校像」を基に、学校として特に力を入れて取り組んでいる9項目について、具体的な項目で評価をしている。また、教職員と同じ項目で保護者に評価をしてもらっている。教職員にとっては、自分たちの取組を振り返ることができるとともに、学校が力を入れて取り組んでいることについて、保護者にも理解をしてもらっているか確かめながら学校運営を進めることができる。

(4) 保護者や地域に、理解と協力を求める公表を工夫している

〈具体例〉

【土庫小学校の学校評価の公表】

学校評価の「登下校の様子・あいさつ」に関する項目の肯定率が、保護者41%と低い結果であった。この評価結果の公表にあたっては、単に数値を示すだけでなく、学校として「あいさつ」や「礼儀」を重点指導課題に位置付けて取り組んでいくこと、また、家庭でも指導をしていただくようお願いすることなどを文書で示して、保護者に理解と協力を求めている。

エ 「私の学校の特色は、〇〇です。」をみんなで自覚する

(7) 全校体制で継続的に行っている活動を見直す

〈多くの学校で見られる例〉

○業前活動を工夫している。

- ・毎日同じことを継続
(かけ足、読書、国語科・算数科の基本的な学習等)
 - ・日替わりで様々な活動を実施
(月・木・計算等の繰り返し学習、水・スピーチ集会、金・全校読書)
(体力づくりと読書活動を交互に実施)
- 生活科や総合的な学習の時間等に地域を教材とした学習を実施している。
- ・伝統芸能(能楽、太鼓等)
 - ・地域の産業を生かした学習
(梅ぼし作り、紙すき、筆作り、観光ボランティア、文化遺産等)
- 全校縦割り班活動を多く取り入れている。
- ・清掃、集会、行事等
- 教科担任制による指導体制を取り入れている。
- 「人権総合学習」を行っている。

(1) 少人数のよさを生かした様々な取組を行っている

〈具体例〉

【柳生小学校の特色ある取組】

全校体制で取り組む活動(業前の体力づくり、木剣体操、全校給食、柳生焼・絵手紙教室等の体験学習)、きめ細かな複式学級の経営(複式学級を基本に、国語科や算数科は学年ごとの指導、体育科等では複数学年の合同学習)、多様な縦割り班による活動(日替わりで、活動やメンバーが替わる)など、少人数のよさを生かした様々な取組を積極的に実施することで、児童は活気あふれる学校生活を送っている。



写真1 木剣体操の様子



写真2 全校給食の様子

(2) 授業を変えれば生徒が変わる(中学校の取組より)

学校生活の中心は授業である。それゆえ、授業が生徒に与える影響には大きいものがある。生徒は授業から各教科等の内容、コミュニケーションの手段等、「生きる」の多くを学んでいる。

したがって、「分かる授業」であるのか「分かりにくい授業」であるのかは極めて重大な教育課題である。生徒は授業が分かれば学習意欲を高め、学力を向上させることができる。また、生徒と生徒、生徒と教員の信頼関係も増していくのである。

「分かる授業」づくりでは、統一した授業規律の確立、学習意欲の向上につながる工夫、丁寧で的確な指導等が大切である。「分かる授業」を創造するためには、教員一人一人が意欲的に授業の工夫・改善に取り組むことや、学校として組織的で効果的な研修を行うこと、そのために互いに学び合える教職員集団をつくることが重要である。

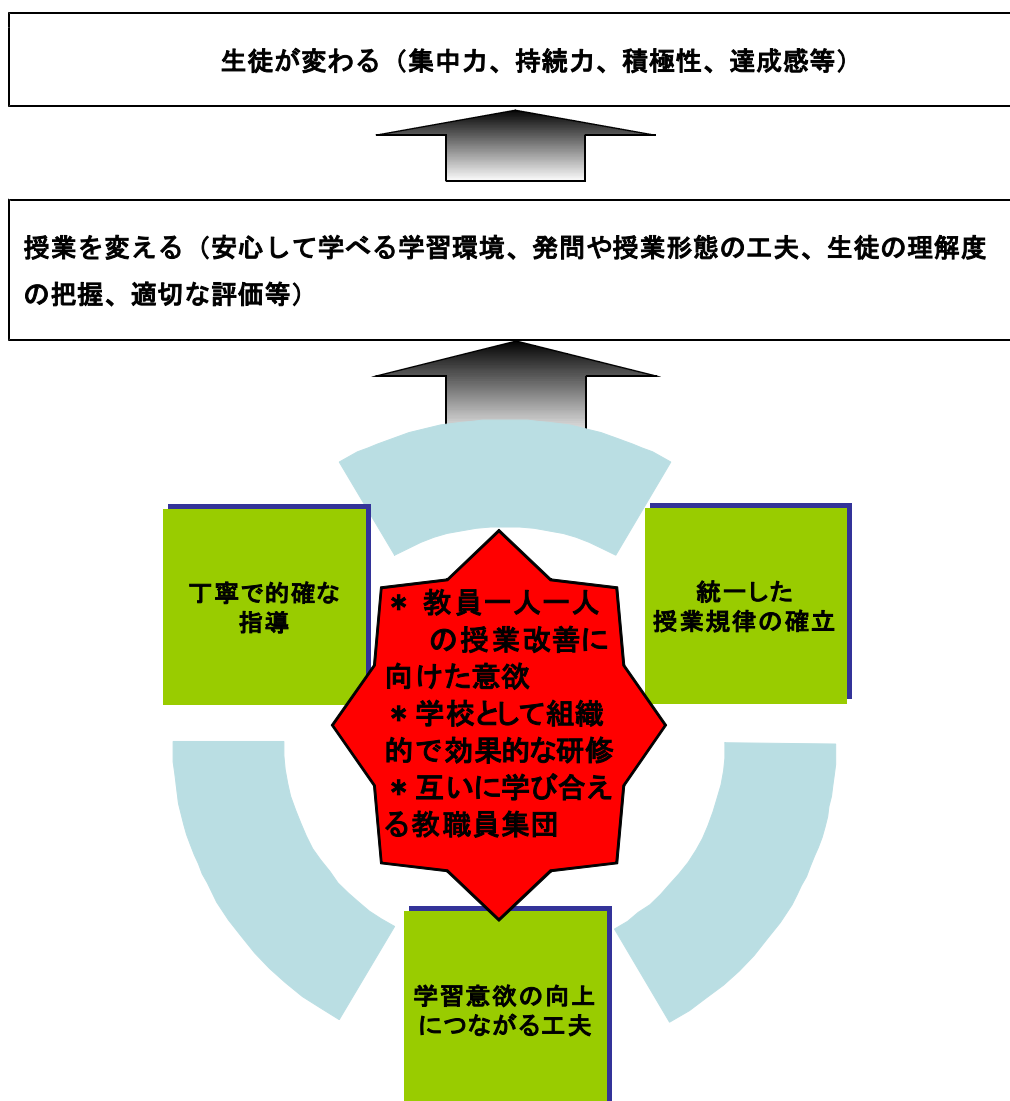


図1 【「分かる授業」を目指したイメージ図】

ア 分かる授業

(7) 統一した授業規律の確立

〈具体例〉

【大淀中学校の授業規律】

授業規律につながる「正しい言葉遣い」、「授業の始めと終わりの礼」、「2分前着席」等、

全教職員が共通理解して学校全体で取り組んでいる。また、忘れ物や提出物についても徹底した指導を行い、授業規律を確立している。

(イ) 学習意欲の向上につながる工夫

〈具体例〉

【大正中学校の授業力向上に向けた校内授業研究の取組】

「生徒を引きつけるような魅力のある授業」を行うために、授業における「目的」、「導入」、「発問」を意識して授業改善を図っている。全教員が授業参観をし、生徒や教職員のアンケートを参考にしながら、授業分析を行い、改善点を中心にした研究協議を行っている。

(ウ) 丁寧で的確な指導

〈具体例〉

【広陵中学校の生徒を引きつける丁寧で的確な授業】

生徒に学習のねらいを明確に示して授業を行っている。また、生徒の発言を受け止め、適切に評価している。1時間を振り返ってみたとき、授業の流れが分かる板書の工夫を行っている。

イ 授業改善を目指した効果的な校内研修の進め方

授業改善に効果的な校内研修のポイント

- 全体研修で効果的な研修（教科・領域に共通する指導内容の研修）
板書の仕方、生徒との会話、評価、授業形態等
- 個別の研修や小グループでの効果的な研修（各教科の指導内容に関する研修）
各教科独自の学習内容、教材等
- 他校の先進的な授業から学ぶ研修

(7) 授業改善に向けた学校全体での取組

〈具体例〉

【都跡中学校の生徒が分かったと実感できる授業づくりに向けた校内授業研究】

「生徒が、分かった、できたと感じながら意欲的に取り組む授業づくり」という研究主題を設定し、全教員が授業公開を行っている。授業公開を行う教員は、授業のねらいや工夫等をプリントで示し、授業を参観した教員は、意見をプリントに記載し、教員に渡している。お互いの良いところを共有したり、自分の授業を振り返る機会を多くもったりすることで、教員の授業力の向上を図っている。

(イ) 学力向上を目指した取組

〈具体例〉

【曾爾中学校の基礎学力、活用力向上に向けた学習指導の取組】

奈良教育大学や曾爾少年自然の家等との連携のもと、各教科で「基礎学力の向上」、「活用力の向上」に向けた取組を行っている。夏休みに実施する「サマースクール」、12月の「GUTS（学力向上合宿）」や3月に実施する「ウインタースクール」において、各教科で「基礎学力の向上」、「活用力の向上」に向けた取組を行っている。また、全教科で授業研究を行い、県教育委員会指導主事から指導・助言を受け、授業改善を図っている。

ウ 互いに学び合える教職員集団

互いに学び合える教職員集団の姿

- ベテラン教員が若い教員を育てている。また、若い教員もベテラン教員から学んでいる。
- 授業の仕方や教材等、何でも相談できる人間関係がある。
- 自由に授業を参観し合ったり意見を交換したりできる。

(7) 互いに成長できる職員室

〈具体例〉

【香芝北中学校の互いに学び合う教職員集団】

ベテラン教員が若い教員の様々な相談にのり、若い教員を育てている。授業を自由に参観し合い、意見交換を行っている。また、若い教員も積極的に学ぶ姿勢をもち自ら授業研究を買って出たり、他の教員の指摘に謙虚に耳を傾けたりして指導力向上を図っている。学校長のリーダーシップのもと、学校教育目標等の実現のために、同じ方向を目指して協力し合う職員室の風土がはぐくまれている。

エ 学びの連続性の創造

年間を通した小中連携の一環として

- 小中連携の一環として中学校の教員が年間を通して小学校で授業を行い、小中の連携、交流を図っている。

(7) 小中連携の一環として

〈具体例〉

【郡山中学校、新庄中学校の小中連携】

校区内の小学校で中学校の教員が継続的に授業を行っている。郡山中学校では、6年生の社会科の授業を、また、新庄中学校では6年生の保健体育科の授業を、年間を通して行い、評価も行っている。

(3) 地域連携の促進 一学校の応援団づくりー（県立学校の取組より）

地域とのつながりを強め、地域社会の教育力を学校の教育活動に活用することが大切である。

そのため、積極的に地域に出向き、地域と様々な交流を通して、地域に根ざし、地域に愛される学校づくりを進める必要がある。その結果として、地域との良好な関係が構築され、地域が学校の応援団になっていくことにつながり、学校だけでは設定できない体験的な学習等を通して、生徒の学校生活がより豊かなものとなることが期待される。

通学路清掃や地域の行事でのボランティア活動等、地域とのかかわりを大切にする地道な活動は地域からの評価を高め、信頼される学校づくりにつながる。地域の教育力を活用するだけでなく、学校の教育資源を積極的に地域社会に提供するなど、地域の求めに応じた連携を進めるこ

とも大切である。

ア 学校が求める地域との連携

(7) 地域の人々を学校へ

地域には、職業や経験等を通して培った高い資質や能力をもつ様々な人々が居住している。これらの人々の専門的な知識や技能等を学校の教育活動に生かすことで、教育活動の多様化とその向上が期待できる。また、部活動についても、地域の人を外部指導者として活用することが考えられる。地域の人々の活用は、生徒たちの社会性や勤労観、職業観の育成を図る上でも有効である。また、学校に新しい発想や教育力を取り入れることにより、閉鎖的になりがちな学校運営の改善や教職員の意識変革を促すことも期待できる。

(4) 社会教育施設との連携

博物館、美術館、公民館等の施設の専門的職員の協力を得て、学校教育に即した内容の事業を計画し、授業や特別活動等を行うことは大いに効果が期待できる。

奈良朱雀高校	奈良市防災センターを活用して「防災体験講座」を開催
西の京高校	地域創生コース：薬師寺等と連携して学習

(9) 地域の人々とのふれあい

地域に出向き、歴史、文化、自然環境や産業等を教材化するなど、地域についての学習を行うことは、生徒の体験的な学習の幅が広がるだけでなく、地域の人々との交流が進む。また、各校では様々なボランティア活動等の取組を進めているが、奉仕の精神等、豊かな心の育成を図る上で成果が期待できる。

こうしたことから、今後、地域において系統的・継続的な体験活動やボランティア活動等の機会を多く設定することが大切である。

磯城野高校	「ホリデーイン磯城野」での農産物販売、開放農園、動物教室
大和中央高校	「筒井地藏尊祭」でのボランティア活動
十津川高校	村内体育大会や駅伝大会への協力・参加
平城高校	「いきいき平城」(地域への授業公開) 教育コース：近隣小学校でのインターンシップ
大宇陀高校	大宇陀区内行事への参加
山辺高校山添分校	「いきいき山添ふれあい祭」、「布目マラソン」への参加
五條高校賀名生分校	「ふれあい健康祭」の共催と参加

<具体例>

【奈良西養護学校の地元自治会との新たな連携協力体制づくりの推進】

開校に際し、理解と支援を求めて、地域住民との懇談会を重ね、福祉に優しい地域を目指す地元自治会との新たな連携協力体制づくりに取り組んだ。校長のリーダーシップ



写真3 はじめの一步祭

のもと、全教職員が一丸となって、新しい学校が生まれる過程で起こる様々な課題の解決のため取り組んできた。このことが、開校セレモニー「はじめの一步祭」等で成果となって現れ、今や、地域が力強い「学校の応援団」となっている。この地域連携の取組の成果を生かし、児童生徒が生き生きと輝きながら活動する学校づくりを進めている。

イ 地域が求める学校との連携

(7) 地域に開かれた学校

学校は、地域の人々とふれあう機会を多くし、学校が地域社会の一員として地域の活動の中心的役割を担うことが大切である。そのため、地域の人々の生涯学習の観点から、地域の子どもや大人に対する学習機会の提供、学校施設の開放等、積極的に地域社会へ貢献することが望まれる。運動場や体育館はもとより、図書館や特別教室も含めた学校の施設の開放に努め、様々な活動を行っていく必要がある。

平城高校	小学校の運動会での補助活動
五條高校	小学校の運動会での補助活動、福祉施設や市の行事での吹奏楽演奏 自由市場「かげろう座」への出店
大和広陵高校	幼稚園で園児に食育指導
大宇陀高校	「黒岩重吾の世界」コーナー等を設けた図書館を地域に開放
大淀高校	地域の行事（お祭り御輿かつぎ）への参加、小学生スポーツ教室 花火大会オープニングセレモニーやクリスマスコンサートでの吹奏楽演奏
青翔高校	地元小学校への出前講座（理科）
榛生昇陽高校	「宇陀子どもフェスタ」への参加・協力
登美ヶ丘高校	小学生への英語の読み聞かせ、「秋風のコンサート」、「少女サッカー教室」
桜井高校	地域清掃（年間約1,000名参加）
ろう学校	「大淀町人権フェスティバル」での演劇上演

〈具体例〉

【吉野高校の全校生徒による「吉野川クリーン作戦】

各種のボランティア活動が活発に実施され、地域との連携を深めている。全校生徒による吉野川クリーン作戦、クラス単位で年間18回行われる通学路清掃、部活動に参加する生徒による学校周辺の清掃活動は、地域から高い評価を得ている。また、恒例となっている生徒会・家庭クラブ・農業クラブによるドライバーへの交通安全ポブリケースやコースター配布、地域の人々への葉ボタンの配布等の活動を通して、地域に根ざした学校づくりに大きな成果を上げている。



写真4 吉野川クリーン作戦

(4) 地域の人々にとっての貴重な学習の場として

学校における開放講座の開催など、地域の人々に学習の機会を提供することが大切である。このことは、学校に対する理解を深めることにつながるだけでなく、地域の教育力の向上を図る上でも有意

義である。

ウ 今後、地域連携を進める上で大切にしたい視点

(7) 集団（地域）の中で個（生徒）は高まる

生徒のよりよい成長を図るため、「集団」の中であって「個」が生かされるという「集団と個」の関係を重視することが大切である。特に自尊感情や社会性等は、集団での営みの中ではぐくまれることから、学校という集団だけにとどまることなく、地域と積極的にしかかわる機会を設定し、活発に活動することが望まれる。

(8) 学校と地域は互いの応援団である

学校は、教育活動のさらなる充実を図るとともに、生徒の様々な能力や資質を培う上で、また、地域は、地域を維持し、地域の活性化を図る上で互いに連携するメリットがある。両者が「互いの応援団」であるという関係を重視しながら、さらなる地域連携を進めることが望まれる。

(9) 学校は地域創生の「要」としての存在である

学校は、その創設期に、地域の文化を継承し、将来を担う人材を育成する教育機関であるという期待が寄せられ、地域が温かく見守る中で発展してきた。その意味で、学校は地域の中心的存在であり、学校を中心とした社会的構造や文化圏があったことを踏まえ、今後の地域連携を進めることも大切である。

5 おわりに

学校アドバイザーチームの目指すところは、県内の公立学校がそれぞれ抱えている悩みや課題を共有し、学校が実効性のある改善を図ることができるよう支援することにある。各学校に対する学校アドバイザーチームの指導・支援が適切なものであったかを検証するとともに、各学校が、より一層魅力と活力ある学校づくりを進める上で有効な情報提供・情報発信に努めていきたい。